



資産形成の学校

出口戦略の基本講座

定額取り崩しの 長所と短所

Q

毎月3万円のように、
定額積立をおすすめして
いるなら、使うときも
定額でよいでしょうか？

A

定額取り崩しには、
致命的なデメリットが
あるので、まずは理解
してください。

定額取り崩し
のデメリット
「収益率配列リスク」

定額取り崩しのデメリット『収益率配列のリスク』

定額取り崩しには、想像以上に使う金額が小さくなってしまう可能性がある

例) 毎年120万円(毎月10万円)の定額取り崩し

収益率配列のリスク

- ・運用資産2000万円を毎年年初(1月1日)に生活費として120万円を取り崩し
- ・取り崩しをしない分は、その年の運用利回りで10年間毎年運用を続ける

取り崩し年数	年間の利回り	取り崩し額[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
1年目	20.0%	120	2000	2256	256

※年初残高:1月1日時点の資産額[万円]

※期末残高:12月31日時点の資産額[万円]

※期末残高2256万円 = (2000万円-120万円) + (2000万円-120万円)×20%

※増減額(年初-期末)256万円 = 2256万円 - 2000万円

定額取り崩しのデメリット『収益率配列のリスク』

定額取り崩しには、想像以上に使う金額が小さくなってしまう可能性がある

例) 前半がプラス利回り、後半がマイナス利回りの場合
10年後の残高1645万円、総取り崩し額2845万円

※小数点以下は四捨五入

取り崩し年数	年間の利回り	取り崩し額[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
1年目	20.0%	120	2000	2256	256
2年目	10.0%	120	2256	2350	94
3年目	30.0%	120	2350	2898	549
4年目	9.0%	120	2898	3029	130
5年目	12.0%	120	3029	3258	229
6年目	-5.0%	120	3258	2981	-277
7年目	-8.0%	120	2981	2632	-349
8年目	-10.0%	120	2632	2261	-371
9年目	-4.0%	120	2261	2055	-206
10年目	-15.0%	120	2055	1645	-410
10年間の平均利回り	3.9%				
取り崩し総額		1200			
残高と取り崩し額の合計				2845	

定額取り崩しのデメリット『収益率配列のリスク』

定額取り崩しには、想像以上に使う金額が小さくなってしまう可能性がある

例) 前半がマイナス利回り、後半がプラス利回り、の場合
10年後の残高698万円、総取り崩し額1898万円

※小数点以下は四捨五入

取り崩し年数	年間の利回り	取り崩し額[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
1年目	-15.0%	120	2000	1598	-402
2年目	-4.0%	120	1598	1419	-179
3年目	-10.0%	120	1419	1169	-250
4年目	-8.0%	120	1169	965	-204
5年目	-5.0%	120	965	803	-162
6年目	12.0%	120	803	765	-38
7年目	9.0%	120	765	703	-62
8年目	30.0%	120	703	758	55
9年目	10.0%	120	758	701	-56
10年目	20.0%	120	701	698	-4
10年間の平均利回り	3.9%				
取り崩し総額		1200			
残高と取り崩し額の合計				1898	

定額取り崩しのデメリット『収益率配列のリスク』

定額取り崩しには、想像以上に使う金額が小さくなってしまう可能性がある

収益率配列のリスク

毎年の利回りの並び方で元本が大きく減ってしまうこと

例) 毎年120万円(毎月10万円)の定額取り崩し

例①) 前半がプラス利回り、後半がマイナス利回りの場合
10年後の残高1645万円、総取り崩し額2845万円

例②) 前半がマイナス利回り、後半がプラス利回り、の場合
10年後の残高698万円、総取り崩し額1898万円



定額取り崩しがおすすめされない最大の理由はこれ

定額取り崩しのデメリット『収益率配列のリスク』

定額取り崩しには、想像以上に使う金額が小さくなってしまう可能性がある

収益率配列のリスク

毎年の利回りの並び方で元本が大きく減ってしまうこと

例) 毎年120万円(毎月10万円)の定額取り崩し

10年間の平均利回りが同じの場合、運用だけなら成果は同じになる。
しかし、取り崩しを考える場合は、利回りの並び方が大きく影響してしまう。

マイナス利回りであった場合に、定額で取り崩してしまうことによって元本が減ってしまう。
すると、後半のプラス利回りのときに資産が回復しないため、大きな差が出てしまう。



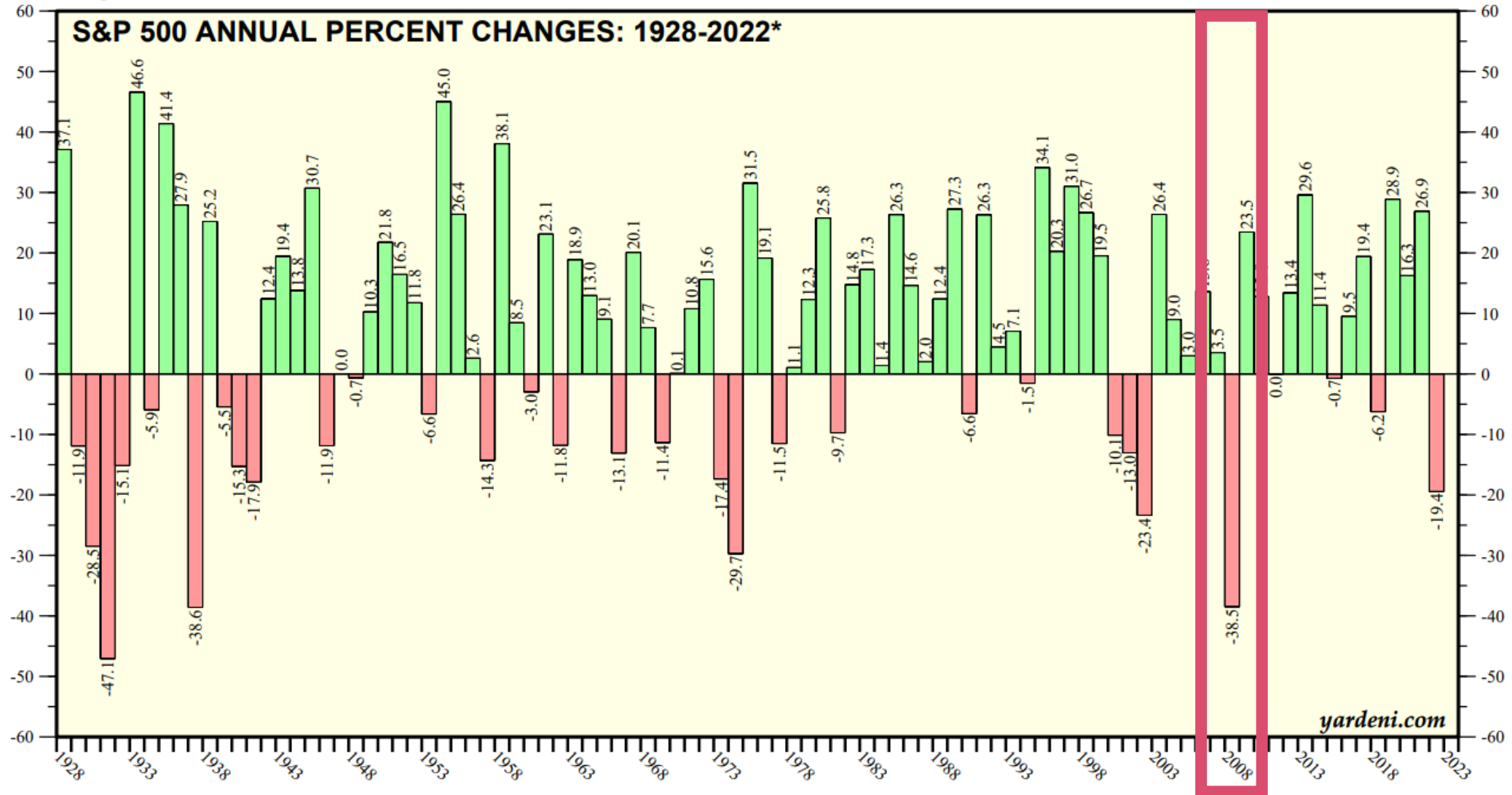
定額取り崩しの場合、収益率(年間の利回り)の並びが資産残高に影響する

取り崩しの初期に
暴落がきたら・・・

参考 取り崩しの初期に大暴落がくると資産寿命が短くなる

S&P500の年間利回り

例) リーマンショックが取り崩し1年目で起こった場合



出典: Stock Market Indicators: Historical Monthly & Annual Returns

参考 取り崩しの初期に大暴落がくると資産寿命が短くなる

年	取り崩し年数	年間の利回り	取り崩し額[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
2009	1年目	-38.5%	120	2000	1156	-844
2010	2年目	23.5%	120	1156	1280	124
2011	3年目	12.8%	120	1280	1308	28
2012	4年目	0.0%	120	1308	1188	-120
2013	5年目	13.4%	120	1188	1211	23
2014	6年目	29.6%	120	1211	1414	203
2015	7年目	11.4%	120	1414	1442	28
2016	8年目	-0.7%	120	1442	1313	-129
2017	9年目	9.5%	120	1313	1306	-7
2018	10年目	19.4%	120	1306	1416	110
10年間の平均利回り		8.0%				
取り崩し総額			1200			
残高と取り崩し額の合計					2616	

取り崩しのはじめに
暴落がくると、
回復できなくなり
資産寿命が
非常に短くなる...



年	取り崩し年数	年間の利回り	取り崩し額[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
2010	1年目	23.5%	120	2000	2322	322
2011	2年目	12.8%	120	2322	2484	162
2012	3年目	0.0%	120	2484	2364	-120
2013	4年目	13.4%	120	2364	2544	181
2014	5年目	29.6%	120	2544	3142	598
2015	6年目	11.4%	120	3142	3366	224
2016	7年目	-0.7%	120	3366	3224	-143
2017	8年目	9.5%	120	3224	3398	175
2018	9年目	19.4%	120	3398	3914	516
2019	10年目	-6.2%	120	3914	3559	-355
10年間の平均利回り		11.3%				
取り崩し総額			1200			
残高と取り崩し額の合計					4759	

定額の取り崩しは

暴落が起きると
有効とはいえない

取り崩しなしなら
どうなるのか？

参考 取り崩しがなく、平均利回りが同じなら収益も同じ

取り崩し年数	年間の利回り	取り崩し額[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
1年目	20.0%	0	2000	2400	400
2年目	10.0%	0	2400	2640	240
3年目	30.0%	0	2640	3432	792
4年目	9.0%	0	3432	3741	309
5年目	12.0%	0	3741	4190	449
6年目	-5.0%	0	4190	3980	-209
7年目	-8.0%	0	3980	3662	-318
8年目	-10.0%	0	3662	3296	-366
9年目	-4.0%	0	3296	3164	-132
10年目	-15.0%	0	3164	2689	-475
10年間の平均利回り	3.9%				

取り崩しが
なければ...

平均利回りが
同じなら、
収益も同じ結果

取り崩し年数	年間の利回り	取り崩し額[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
1年目	-15.0%	0	2000	1700	-300
2年目	-4.0%	0	1700	1632	-68
3年目	-10.0%	0	1632	1469	-163
4年目	-8.0%	0	1469	1351	-118
5年目	-5.0%	0	1351	1284	-68
6年目	12.0%	0	1284	1438	154
7年目	9.0%	0	1438	1567	129
8年目	30.0%	0	1567	2037	470
9年目	10.0%	0	2037	2241	204
10年目	20.0%	0	2241	2689	448
10年間の平均利回り	3.9%				



どちらも
2689万円

定額取り崩し
で気を付けること

参考 元本を減らさない方が資産寿命を延ばすことができる

取り崩し年数	年間の利回り	取り崩し額[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
1年目	20.0%	120	2000	2256	256
2年目	10.0%	120	2256	2350	94
3年目	30.0%	120	2350	2898	549
4年目	9.0%	120	2898	3029	130
5年目	12.0%	120	3029	3258	229
6年目	-5.0%	120	3258	2981	-277
7年目	-8.0%	120	2981	2632	-349
8年目	-10.0%	120	2632	2261	-371
9年目	-4.0%	120	2261	2055	-206
10年目	-15.0%	120	2055	1645	-410
10年間の平均利回り		3.9%			

5年目まで
3258万円



取り崩しの初期が
今後の資産の
大きさを左右する

取り崩し年数	年間の利回り	取り崩し額[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
1年目	-15.0%	120	2000	1598	-402
2年目	-4.0%	120	1598	1419	-179
3年目	-10.0%	120	1419	1169	-250
4年目	-8.0%	120	1169	965	-204
5年目	-5.0%	120	965	803	-162
6年目	12.0%	120	803	765	-38
7年目	9.0%	120	765	703	-62
8年目	30.0%	120	703	758	55
9年目	10.0%	120	758	701	-56
10年目	20.0%	120	701	698	-4
10年間の平均利回り		3.9%			

5年目まで
803万円



元本が小さく
なってしまうと
資産が回復しない

定額取り崩し
のメリット

定額取り崩しのメリット『予想がしやすい』

定額取り崩しは、どれくらい資産が使えたり、なくなるのか予想がしやすい

※小数点以下は四捨五入

例) 毎年120万円(毎月10万円)の定額取り崩し
毎年同じ金額が使えるので、生活費を変えなくても良いし、何よりわかりやすい

取り崩し年数	年間の利回り	取り崩し額[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
1年目	20.0%	120	2000	2256	256
2年目	10.0%	120	2256	2350	94
3年目	30.0%	120	2350	2898	549
4年目	9.0%	120	2898	3029	130
5年目	12.0%	120	3029	3258	229
6年目	-5.0%	120	3258	2981	-277
7年目	-8.0%	120	2981	2632	-349
8年目	-10.0%	120	2632	2261	-371
9年目	-4.0%	120	2261	2055	-206
10年目	-15.0%	120	2055	1645	-410
10年間の平均利回り	3.9%				
取り崩し総額		1200			
残高と取り崩し額の合計				2845	

まとめ

定額取り崩しのメリットとデメリットを理解して出口戦略を考えてください

メリット

- ・取り崩し金額が一定なのでわかりやすい
- ・将来や生活の予想が立てやすい

デメリット

- ・取り崩しの初期に大暴落がくると資産寿命が短くなる
- ・定率取り崩しよりも資産が早く減ってしまう
- ・毎年の利回りの並び方で元本が大きく減ってしまう



定額の取り崩しでは、

資産を大きく目減りさせてしまうリスクがあることをしっかりと理解する

Q

毎月3万円のように、
定額積立をおすすめして
いるなら、使うときも
定額でよいでしょうか？

A

定額取り崩しには、
致命的なデメリットが
あるので、まずは理解
してください。